

リアルオプションと戦略

2017 March

Vol. 9 No. 1

 日本リアルオプション学会
The Japan Association of Real Options and Strategy
<http://realopn.jp>

学会創立十周年記念号

特集 リアルオプションの原点とこれからのフロンティア

巻頭言

日本の選択に貢献する学会を目指して [服部 徹] ————— 1

公開
研究会
2016

講演要旨

セレスの成長戦略 ～変化に対応する柔軟なビジネスモデル構築を目指して～ [都木 聡] ————— 2

大会
JAROS
2016

リアルオプション研究の新しい方向をめざして — 幾つかの事例から考える — [森平 爽一郎] ————— 6

破壊的イノベーションと電気事業のビジネスモデル変革 [伊藤 剛] ————— 17

2つのコードと企業価値向上 — 長期の企業価値向上に必要な施策：機関投資家の視点から — [堀江 貞之] — 26

リアルオプション学会の原点とこれからのフロンティア ————— 30

[高森 寛・今井 潤一・長谷川 専・北原 康富・小林 孝明]

四則演算によるリアルオプション [後藤 允] ————— 44

曖昧性を考慮したプロジェクトへの投資タイミングの決定 [辻村 元男] ————— 51

リアルオプションの経済実験 [高嶋 隆太] ————— 57

JAROS創立十周年記念大会ルポ [佐藤 公俊] ————— 62

十周年
記念特集

不確実性下の戦略策定のためのモデリング～シナリオ戦略法(1) ————— 66

— インフラ・デザインおよび事業投資における戦略と運用の2段階問題 — [高森 寛・呉 瑛禄・長坂 研]

FinTech ～リアルオプションに何ができるか～ [青木 克人] ————— 73

査読
論文

経営者保証の価値に関する一考察：リアルオプションアプローチによる分析 [伊藤 晴祥] ————— 78

天候デリバティブの種苗ビジネスへの展開 [福島 巧・中岡 英隆] ————— 88

農学的知見による多変量線形回帰モデルの最適化とオプション・プライシング

学会ニュース

第9巻 第1号

目次

巻頭言

日本の選択に貢献する学会を目指して…………… 服部 徹 1

公開研究会 講演要旨

セレスの成長戦略 ～変化に対応する柔軟なビジネスモデル構築を目指して～ …… 都木 聡 2

JAROS 2016 研究発表大会 講演要旨

〈基調講演: セミナー「リアルオプションが挑む価値創造のフロンティア」より〉

リアルオプション研究の新しい方向をめざして — 幾つかの事例から考える — …… 森平 爽一郎 6

破壊的イノベーションと電気事業のビジネスモデル変革…………… 伊藤 剛 17

2つのコードと企業価値向上…………… 堀江 貞之 26

— 長期の企業価値向上に必要な施策: 機関投資家の視点から —

〈パネルディスカッション〉

リアルオプション学会の原点とこれからのフロンティア

…………… 高森 寛・今井 潤一・長谷川 専・北原 康富・小林 孝明 30

〈チュートリアル〉

四則演算によるリアルオプション…………… 後藤 允 44

曖昧性を考慮したプロジェクトへの投資タイミングの決定…………… 辻村 元男 51

リアルオプションの経済実験…………… 高嶋 隆太 57

〈大会ルポ〉

JAROS創立十周年記念大会ルポ…………… 佐藤 公俊 62

学会創立十周年記念 特集「リアルオプションの原点とこれからのフロンティア」

不確実性下の戦略策定のためのモデリング～シナリオ戦略法(1)

— インフラ・デザインおよび事業投資における戦略と運用の2段階問題 —

…………… 高森 寛・呉 瑛祿・長坂 研 66

FinTech ～リアルオプションに何ができるか～…………… 青木 克人 73

査読論文

経営者保証の価値に関する一考察: リアルオプションアプローチによる分析…………… 伊藤 晴祥 78

天候デリバティブの種苗ビジネスへの展開…………… 福島 巧・中岡 英隆 88
農学的知見による多変量線形回帰モデルの最適化とオプション・プライシング

〈学会ニュース〉

J-Stage: 電子ジャーナル掲載予告…………… 16, 25, 50, 77, 104

論文誌「リアルオプション研究」原稿募集のご案内…………… 25, 65, 87

JAROS 2017 研究発表大会へのご案内…………… 29, 50, 65, 101

Call for Paper: International Journal of Real Options and Strategy…………… 29, 101

会員の近著紹介…………… 56

学会だより…………… 102

2016年度公開研究会記録…………… 103

法人会員リスト…………… 104

編集後記…………… (105)

学会創立十周年記念号 巻頭言

日本の選択に貢献する学会を目指して

服部 徹

(日本リアルオプション学会会長 電力中央研究所)

日本リアルオプション学会は、会員の皆様や多くの関係者に支えられ、設立10周年を無事に迎えることができた。学会の設立とその後の発展のためにご尽力いただいた皆さまに心から御礼申し上げたい。

振り返ると、最初の10年間は、いわば学会の草創期で、失敗を恐れず、手探りで様々なことにチャレンジしてきた。その結果、学会としての活動を継続する上で必要な基盤はある程度整ってきたのではないかと考えている。もっとも、すべてが順調というわけではなく、見直しが必要な取り組みもある。いずれにせよ、これからは学会の存在意義を確かなものとしていくことが重要となるであろう。とりあえず、やってみる、というだけでなく、学問の発展と現実的な問題の解決への貢献によって、本学会の存在感を高めていかなければならないということである。それは必ずしも学会の会員数を増やし続けて規模を大きくすることだけを意味するのではなく、むしろ規模は小さくてもキラリと光る存在感を出せば良いのである。次の10年、そしてさらにその先の10年に向けて、今は色々なことをリセットして、学会を「再起動(reboot)」する良いタイミングかもしれない。学会が直面する課題を解決していくためには、これからも会員の皆様のご協力が必要である。重要なタイミングで、学会として最善のオプションを行使できるよう、常日頃、会員の皆様のご意見に積極的に耳を傾けていきたいと考えている。

さて、学会設立10年を迎えた2016年度を振り返ると、イギリスのEU離脱や米国でのトランプ大統領の誕生などの出来事もあり、「国」のあり方が問われる一年だったように思う。少し前までは、グローバル化が進んで、国あるいは国家というものの存在が薄らいでいくような感覚があったことからすると驚かざるを得ない一年であった。そんなことを思いながら、この巻頭言を準備していたところ、本学会の正式名称が、単なる「リアルオプション学会」ではなく、「日本リアルオプション学会」であることにあらためて気がついた。リアルオプションの研究は世界中で行われていて、その中で日本を拠点とするリアルオプションの学会として「日本リアルオプション学

会」となったのであろう。もちろん、本学会は日本人以外でも会員になれる世界に開かれた学会であるし、英文誌の発行にも取り組む国際的な学会である。学会名に「日本」がつくからこそ、常に世界を意識した学会であるべきだ。しかし、本学会が日本を拠点とし、日本と特別なつながりがある以上、まずは世界のうちの日本に貢献できる学会として存在しなければならない。

その日本がこれから解決していかなければならない課題は実に多い。政治や外交、経済、金融、財政、科学技術、エネルギー、環境、インフラ、人口、教育、文化など、様々な分野で日本の将来は大きなリスクに晒されている。個別の問題についてここで具体的に述べる余裕はないが、放置しておけば深刻な影響をもたらす可能性のある問題が山積している。国として、日本はこれから様々な難しい選択をしていかなければならないが、現在と将来において、どのような選択肢があり、どのタイミングでどのような意思決定をしていくべきなのか、ということを明らかにしていく上で、リアルオプションの考え方が非常に有益であることは間違いない。そうであるならば、本学会は、リアルオプションの研究を通じて、様々な分野における日本の選択のために貢献できる学会でありたい、という志を持って良いのではないかなと思うのである。

もちろん、日本の選択というのは、日本の企業や団体・組織、また、日本人あるいは日本に住む一人一人が、個別に抱えている現実的な問題を前に、どのような意思決定をするのか、ということの積み重ねにもかかっている。そういう個々の様々な意思決定の問題に関する研究の蓄積の先に、日本の問題の解決があり、そして日本から、世界の問題の解決のために発信できるリアルオプションの研究結果が生まれると信じたい。

この10周年を記念する学会機関誌の特集号が、会員の皆様にとって、学会での新たな活動のヒントとなり、そして、これからの日本の選択にどのように貢献できるかを考えるきっかけとなれば幸いである。

編集後記

日本リアルオプション学会の機関誌「リアルオプションと戦略」の第9巻第1号をお届けいたします。本年度は、当学会が2006年7月28日に設立されてから創立10周年にあたりますので、本号は学会創立十周年記念号として特集テーマ「リアルオプション学会の原点とこれからのフロンティア」を設け、特別号として盛りだくさんの記事の掲載を行いました。まず、学会・会長の巻頭言を始めとして、公開研究会の講演要旨、創立十周年を記念して開催されたJAROS2016研究発表大会の基調講演要旨やパネルディスカッション「リアルオプション学会の原点とこれからのフロンティア」のパネラー発表要旨、チュートリアル講演要旨、そして大会ルポを掲載いたしました。また、十周年記念号の特集テーマに沿った解説記事、論説記事を掲載し、最後に査読論文2篇を掲載することができました。これもタイトスケジュールの中で原稿を寄稿して頂いた皆様のご協力の賜物と心より感謝申し上げます。

次号第9巻第2号は、学会の研究叢書第1号として、宮原孝夫先生の研究ノート「プロジェクトの総合的評価理論『リスク鋭感的価値尺度法』」を本年4月に刊行予定しておりますので、ご期待下さい。

中岡英隆

日本リアルオプション学会機関誌
リアルオプションと戦略 第9巻 第1号

2017年3月31日 発行

(機関誌編集委員会)

委員長：高森寛

委員：森平爽一郎、中岡英隆、伊藤晴祥

発行所 **日本リアルオプション学会**

THE JAPAN ASSOCIATION OF REAL OPTIONS AND STRATEGY

事務局本部：

〒103-0027

東京都中央区日本橋1-4-1 日本橋1丁目ビル5F

早稲田大学ファイナンス研究センター

事務業務担当：

〒104-0033

東京都中央区新川2-22-4 新共立ビル2F

電話：03-3551-9893 FAX：03-3553-2047